

FoE Japan green earth

フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン

NEWSLETTER vol.94 spring 2025 | www.foejapan.org

福島第一原発事故から14年

事故の教訓はどこに？

CONTENTS

- 02-03 特集 脱原発と福島支援
福島第一原発事故から14年 事故の教訓はどこに？
- 04-05 ACTION REPORT
北海道十勝の森林を未来へつなぐ、持続可能な森林経営の実践
フィジー・ナモシ銅鉱山に「No!」ウェビナーで住民が訴え
LNGがクリーンという欺瞞 米国の市民・NGOが訴え
誰もが再エネでんきを使える社会を実現するために
I am a friend of the earth Vol.3
- 06 FoE Japanは創立45周年を迎えました／新事務局長よりご挨拶

福島第一原発事故から14年 事故の教訓はどこに？



東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故の発生から14年が経過しました。事故はいまだ収束しておらず、被害も続いています。ふるさとのかたちは変貌し、避難した人も、帰還した人も、また新たに移住した人も、さまざまな困難に直面しています。

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、多くの家屋が倒壊し、道路が寸断され、孤立集落が発生しました。現在の原子力防災や避難計画が「絵に描いた餅」に過ぎず、複合災害に対応できないものであることを私たちに突きつけました。

一方で、日本政府は着実に原発回帰政策を進めています。これは、福島第一原発事故の教訓を蔑ろにし、原発の抱えるコストとリスク、解決不可能な核のごみ問題から目をそむけるものです。

見えない廃炉の形

東電は福島第一原発の廃炉を2051年までに完了するという工程表（ロードマップ）を掲げています。しかし、どのような状況をもって「廃炉」とするのかは示されていません。

2024年11月、福島第一原発事故により溶け落ちて固まった核燃料デブリの試験取り出しが大きく報じられました。何度も遅延とトラブルを繰り返し、作業員の被ばくを伴って取り出されたデブリの量はわずか約0.7グラムです。

東電はこれをもって「デブリの取り出し開始」とみなし、廃炉ロードマップの第3期開始としました。しかし、880トンにおよぶデブリを取り出した後、どこでどのように処理するかは決まっています。デブリの取り出しが至上命題化していますが、本当にそれが正しいのでしょうか。

デブリの取り出しが大きく報じられる一方で、廃炉によって発生する膨大な量の放射性廃棄物の全容はいまだ明らかになっていません。日本原子力学会のレポートによれば、廃炉作業で発生する放射性廃棄物は780万トンにのぼります。政府は福島第一原発事故の処理費用を23.4兆円としていますが、この膨大な放射性廃棄物の処理費用は、その中には含まれていません。

除染で生じた汚染土の「復興再生利用」

環境省は2025年4月、除染で生じた放射性物質を含む大量の土を公共事業等で再利用することを可能にする環境省令の改定を行いました。しかし、責任主体や管理期間、情報公開、住民への説明についての明確な規定はなく、法的にも曖昧で問題の多い内容となっています。環境省は「復興再生利用」という造語を用いていますが、「復興」という言葉を加えることで、放射性物質の拡散を「復興に資する」と印象づけたい思

惑が透けて見えます。

放射性物質は、集中管理し、環境中に拡散させないことが原則です。それにも関わらず、批判や不安の声をあげる人たちに対して「風評加害者」のレッテルを貼り、黙らせようとする風潮があり、社会的な議論を妨げています。汚染土をどうするのか、廃炉や復興をどのように進めていくのかについては、幅広い全国的な議論が必要なのではないでしょうか。

原発回帰の第7次エネルギー基本計画

2月18日、エネルギーに関する国の中長期的な方針を定める「第7次エネルギー基本計画」が閣議決定されました。福島原発事故以降も維持されてきた「原子力依存度の可能な限りの低減」という文言が削除され、「最大限活用」とされました。また2040年度の電源構成に占める原発の割合は「2割程度」とされています。これは既存原発の大半に当たる30基以上の再稼働を想定したものです。その中には、原子力規制委員会が新規規制基準に適合しないと判断した敦賀原発なども含まれています。こうした方針は、実現可能性が疑わしく合理性にも欠け、老朽原発の運転延長を前提とした危険極まりない計画です。何万年もの管理を要する「核のごみ」を生み出し、将来世代に大きな負の遺産を残す原発を、このまま続けてよいのでしょうか。

原発のコストをめぐる印象操作

第7次エネルギー基本計画では、原発のコストを「他電源に比して遜色ない」としています。果たしてそうでしょうか。

投資会社ラザードが発表している電源別の発電コスト2023年版を見てみると、原発は他と比べて最もコストの高い電源となっています。しかも、ここ10年で再エネのコストが劇的に下

がっているのに対し、原発のコストは上昇を続けています。

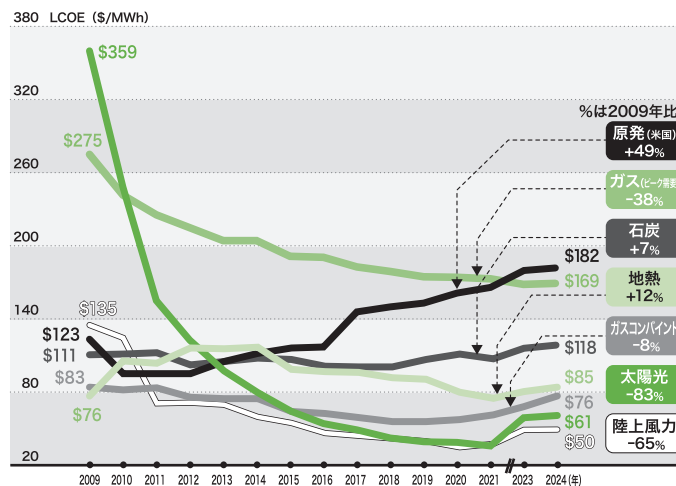
ここ数年、海外で新設された原発の費用は一基あたり数兆円規模に達しています。しかし、政府がコスト試算に用いた額は7,203億円。なぜか日本では原発が安くつくることになっています。

さらに、試算の前提として、事故の発生頻度を、1つの原子炉あたり従来の4,000年に1回から1万2,000年に1回に変更していますが、その科学的な根拠はありません。

このような印象操作により、結果的に原発を「安い」と見せかけているのです。

非民主的な決定プロセス

エネルギー基本計画について議論された政府審議会の構成は、化石燃料や原子力、産業界につながりのある委員が多数を占めており、気候変動、再エネ、自治体や地域、SDGs、原発事故などに関わる専門家や当事者、環境NGO、そして若い世代も含めた議論が行われることはありませんでした。



世界的な発電費用の推移

出典：Lazard's Levelized Cost of Energy Analysis—Version 17.0, June 2024

FoE Japanは今後とも、原発事故の被害を直視し、多くの人たちとつながって、原発のない社会を目指して活動将继续していきます。

(満田夏花)

「福島原発事故・能登半島地震の教訓は？ エネルギーの民主化は？」世代を超え考えるシンポジウムを開催



▲シンポジウムでは若い世代も交え、エネルギーの民主化について議論

3月1日に法政大学にて、シンポジウム「原発事故から14年—福島と能登から考えるエネルギーの未来」を開催しました。会場とオンライン合わせて300人近くが参加しました。

第一部では、FoE Japanが制作した映像「能登半島地震と原発」を上映。珠洲市在住の北野進さんに、能登半島地震の教訓について、浪江町から兵庫県に避難した菅野みずえさんには、原発事故と避難についてお話をいただきました。第二部では、全国7カ所の原発や関連施設周辺で活動を行っている市民から、原子力推進の政策にさまざまな形で立ち向かっている運動についての報告がありました。第三部では、気候変動問題や再生可能エネルギーの普及に取り組む若い世代を交えて、自らの経験をもとに、エネルギーの民主化をどのように実現していくか語り合いました。

武藤類子さんがバイエルン「環境賞」受賞

長年にわたり日本の脱原発運動を支え、福島第一原発事故以降は福島原発告訴団団長として、東電や国の責任を問い続けてきた武藤類子さんが、ドイツの環境保護団体BUND Naturschutz in Bayern e.V. (バイエルン自然保護連盟、FoEドイツバイエルン州本部) から環境賞を受賞しました。この賞は、2008年から毎年、環境保全に顕著な貢献をした個人や団体に贈られる歴史のある賞です。3月9日の受賞イベントでは、ドイツ・ニュルンベルクと三春町の公民館をオンラインでつなぎ、三春町には武藤類子さんとそのご家族、ご友人が集まり、FoE Japanスタッフも一緒に、受賞をお祝いしました。



▲武藤類子さん受賞記念イベントにかけつけたみなさんとともに

ACTION REPORT

FoE Japanの
各活動の報告

北海道十勝の森林を未来へつなぐ、 持続可能な森林経営の実践

森林保全

生物多様性 # 北方林

FoE Japanでは、昨年度から北海道十勝の南部、広尾郡に森林を所有する史春森林財団と協力し、本州とは異なる歴史や植生を持つ北方林を持続可能な手法で利用すると同時に、この取り組みを広く他地域へも伝える試みを開始しています。

2024年11月には、広尾町の市街地からほど近い「茂寄の森」において、試験的なエコツアーを実施し、平地ならではの大型林業機械によるカラマツの間伐施業の視察や、チェーンソーによる伐倒体験を行いました。同地は、広葉樹の二次林も多く、海とサケ遡上河川にも近接していることから、森と川と海のつながりを感じ取れる豊かな森です。今後は、地域の子供たちも訪れることができる空間として整備を進めていく予定です。

また、今年2月には、北海道の社有林での森林経営に取り組む首都圏の企業の方々とともに、昨年、日高山脈襟裳十勝国立公園として指定された森林地帯のバッファゾーンに位置する「上トヨイの森」にて、溪畔林を含む林地の持続可能な経営方法について、林業や野生生物管理の専門家と意見交換と検討を行いました。

今後各分野の専門家や地域の担い手と協力しながら、この地域の未来につながる森づくりに参画していきます。

(佐々木勝教)



チェーンソーによるカラマツの間伐作業体験

フィジー・ナモシ銅鉱山に「No!」 ウェビナーで住民が訴え

開発と人権

鉱物資源



鉱山開発により失われる可能性のある広大なナモシ郡の自然

鉱物資源に関する連続セミナーの第4回として、昨年FoE Japanとアジア太平洋資料センター（PARC）が現地調査を行ったフィジーのナモシ銅鉱山について、現地住民の方々をゲストに迎え、2月8日にウェビナーを開催しました。

この地域はとても緑が豊かで、人々が自然と共存しながら暮らしています。しかし、金や銅の鉱山があるという理由で、日本や豪州などの企業が入り、住民への十分な説明もないまま、鉱山開発や水力発電ダムの計画を進めようとしています。

当日は、FoE Japanが現地で撮影した映像を紹介するとともに、20名近くの住民の方々が集結し、計画に対する反対のメッセージを、一人ひとり力強く届けてくださいました。これらの鉱物資源は現在、グローバルノースによる「脱炭素」実現の名の下で収奪されようとしています。しかし、減少し続けている貴重な森林や生態系、そして自然と調和して暮らす人々の生活を壊すことが、果たして環境問題の改善に繋がるのでしょうか。

FoE Japanのホームページにて、セミナーの録画をご覧いただけます。第5回のセミナーは、5月に南米のリチウム開発をテーマに開催予定です。ご参加をお待ちしております。

(佐藤万優子)



詳細はこちら

LNGがクリーンという欺瞞 — 米国の市民・NGOが訴え

脱化石燃料

環境正義 # ガス開発

1月27日～31日、米国・テキサス州からガス開発の影響を受けるコミュニティのメンバーやNGOのメンバーが来日し、ガス開発が地域社会に及ぼす悪影響について報告しました。

米国では日本の官民が関わるLNG（液化天然ガス）ターミナルの建設が相次いでいます。マニング・ローラーソンさんは、日本のJERA等が出資するテキサス州・フリーポートLNGターミ

ナルの近くに住んでいます。同地には大企業の工場が集中し、コミュニティが貧しくなる一方で、企業ばかりが儲けていると指摘。2022年にフリーポートLNGターミナルで爆発事故が起きなど、人々の安全性が蔑ろにされていると話しました。汚染はガスが採掘される現場から始まっています。オイルフィールド・ウィットネスのシャロン・ウィルソンさんは、光学ガスカメラ（OGIカメラ）を用いて目に見えないガス施設の汚染を長年撮影・記録しています。ウィルソンさんは、ガスがクリーンだというのは産業界による嘘だと断言。日本の官民に対し、ガス開発を止めるよう呼びかけました。

LNGの主成分であるメタンの温室効果は、100年単位で見れば同じ量の二酸化炭素の約30倍、20年単位では約80倍とされています。一方、メタンは二酸化炭素に比べて大気寿命が短いため（平均12年で消滅）、メタン排出を早急に削減することが重要です。大気中のメタンの濃度は1750年以降、160%以上も増加しており、現在も上昇を続けています。メタンの排出源の半分以上は、化石燃料の使用や農業など、人間活動によるものです。気候危機を食い止めるためにも、またアメリカのコミュニティで起きている健康被害や人権侵害を防ぐためにも、ガス開発への支援を止める必要があります。

（深草亜悠美）

誰もが再エネでんきを使える社会を実現するために

気候変動

パワースhift # 生活困窮者支援

化石燃料は気候変動や電気代高騰の原因となっており、その影響をより深刻に受けるのは、困窮者などの社会的弱者です。原発や原発事故後の被ばく労働にも、社会的弱者が関

わってきました。にもかかわらず、経済的に困難な状況にある方々は再生可能エネルギーの電気を選びにくく、化石燃料や原発の電気を使わざるを得ないのが現状です。

この状況を乗り越えるために、FoE Japanが事務局を務めるパワースhift・キャンペーンでは、新たに「パワースhiftHOMEプロジェクト」をスタートしました。

パワースhiftHOMEプロジェクトの内容：

- ① 困窮者支援団体の事務所やシェルターの電気をパワースhift！
- ② みんなの電気代で支援団体を応援！
- ③ 省エネも大事！断熱・省エネDIY

1月～3月には、アーユス仏教国際協力ネットワークの支援を受け、つくろい東京ファンドの事務所で簡易断熱DIYを行いました。古い建物のため、窓の周辺に隙間があり、それをふさいだり、中空ポリカーボネートを貼り付けたことで、少しでもありますが変化を感じていただけたようです。報告イベントの録画や資料を掲載しています。ぜひご覧ください。

（吉田明子）



詳細はこちら



I am a friend of the earth vol.3

鈴木康平さん FoE Japan ボランティア

鈴木さんは長年物理の教師として活躍し、2017年からボランティアとしてFoE Japanに関わり始めました。そのきっかけは福島第一原発事故だったと言います。「原発の安全神話を疑わずに生きてきましたが、3.11でそれが変わりました。退職後は環境問題に直接関わる場で学びたいと思うようになりました」。

思い出に残っている活動は？「毎週事務所で行われるスタッフ会議は、参加するだけでも勉強になりました。また、スーパーマーケットの冷房温度調査では、106店舗を手分けして周り、調査結果を資料にまとめました。先輩ボランティアである鈴木国夫さんと事務所で作業をしたり、他団体の方と交流したことが記憶に残っています」。

現在は、自由学園環境文化創造センターのお仕事やクライメート・リアリティ・プロジェクトの活動を続けながら、学生たちと環境再生型有機農業（リジェネラティブ・オーガニック農業）の実践と研究に取り組んでいます。最近「アグロフォレストリー」など環境を守る農業のあり方を学びにタイまで行ったそう！

インタビューで自らの活動を語る際に、環境分野でよく知られた方の名前が次々に出てくることが印象的でした。「ある程度年齢を重ねると、そこからは伏線回収」と話す鈴木さん。好奇心を持ち続け、蒔いてきた出会いや経験の種が、今のつながりを生んでいるのだと感じました。

FoE Japanは 創立45周年を迎えました



45周年の主要イベント

- 6月⇒総会と感謝イベント
- 7月⇒「45年の歩み」WEB特設ページ公開
- 7～8月上旬⇒クラウドファンディング実施
- 秋⇒チャリティーイベント開催

新事務局長よりご挨拶



深草亜悠美
AYUMI FUKAKUSA

2025年4月より、事務局長を拝命いたしました深草亜悠美と申します。

私とFoE Japanとの関わりは、2012年に学生インターンを始めたところからスタートしました。脱原発・エネルギー政策に関する活動の前線にいたスタッフの姿から、また海外の団体と連携しながら草の根の活動をするFoEの活動からたくさんのことを学ばせていただき、2016年にスタッフとなりました。FoE Japanは今年で創立45周年を迎えます。

社会変化のスピードが加速し、ポピュリズムの台頭や民主的スペースの縮小が各国で進んでいます。FoE Japanが大切にしてきた、社会正義の原則や、社会・環境影響を受ける市民・住民と共に歩むという姿勢がますます重要になっていると考えています。

事務局長という役目は重責ではありますが、周りの方に支えてもらいながら、私なりに務めていきたいと思っています。引き続きFoE Japanへのご支援をよろしくお願いいたします。

FoE Japan (フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン)とは

世界73カ国にネットワークを持ち、国連にNGOとして正式に承認されているFriends of the Earthのメンバーです。地球上のすべての生命(人、民族、生物、自然)が互いに共生し、尊厳をもって生きることができる、平和で持続可能な社会を目指し、1980年より日本での活動を続けています。

会員募集

FoE Japanの活動は皆さまのご支援によって支えられています。
持続可能な社会をめざし、国内外の環境問題に取り組む私たちを応援してください。

会員特典

- 入会時にオリジナルエコグッズと会員証をお届けします。
- ニュースレター(季刊)をお届けします。
- 各種イベント等、環境学習講師派遣料、出版物等が割引になります。
- 会員限定のイベントやプロジェクトに参加いただけます。

会員

種類	年会費
個人	5,000円 10,000円 30,000円 50,000円
学生	3,000円
ファミリー	3,000円
団体(一口)	10,000円
法人(一口)	50,000円

お申し込み方法

パンフレットから
事務局にご請求ください

ウェブサイトから
www.foejapan.org

お支払い方法

 [下記のいずれかの方法をご選択できます]

- 郵便振替 郵便振替口座 00130-2-68026 FoE Japan
- 銀行振込 城南信用金庫 高円寺支店(普)358434 エフ・オー・イー・ジャパン
*銀行振込の場合は、お手数ですが送金後事務局までご連絡ください。
- 銀行自動引落し 所定の自動引落利用申込書をご利用ください。
- クレジットカード ウェブ決済をご利用いただけます。

寄付の募集

金額の多少に関わらず随時寄付金を募集しています。FoE Japanへのご寄付は税制優遇措置(寄附金控除)の対象になります。お支払いは会費と同様です。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

編集後記

年々、春の訪れにも変化を感じます。今年は急激に暖かくなったと思ったら冬に逆戻り。身体には厳しいですが、近所の桜は例年よりも長持ちしたような印象です。今年度より新事務局長が就任しました。国内外の活動に分野横断的に関わってきた経験と広い視野で、これからのFoE Japanを作ってくれと期待しています。(K)

green earth Vol.94 2025年4月30日発行

発行人 ランダル・ヘルテン
編集 舞木瑞季 篠原ゆり子 佐々木勝教
デザイン 畠山功子
印刷 株式会社 文星閣



認定NPO法人 FoE Japan
(フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン)

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-21-9
TEL 03・6909・5983 FAX 03・6909・5986
<https://www.foejapan.org>
E-MAIL info@foejapan.org

